

藤枝市長 北村 正平 様

令和7年度の予算編成に向けて

提 言 書

藤枝市議会・会派

藤のまち未来

はじめに

安全・安心のまち「ふじえだ」。だれもが暮らしやすいまち「ふじえだ」。子どもからお年寄りまで、すべての市民が夢と希望を持てるまち「ふじえだ」。そんな豊かなまちづくりを目指し、市長（執行部）、議会は、両輪となって取り組んでいます。政治・経済・環境等の変化はあまりにも激しく、課題も一層、多様化・複雑化しています。

私たち会派「藤のまち未来」7名の議員は、市内各地から選出された代表であり、会派結成以来、それぞれの地域で暮らす市民の皆さまの生活に寄り添いつつ、福祉向上と本市発展のために努力し活動して来ています。

今回の提言は、北村市長が令和7年度戦略方針で掲げられました、「すべての施策を市民目線で再構築し、真に求められるサービスを重点的に展開」を視点を考えたものであり、本市全域のバランスよい発展や環境づくりのために、地域住民の切なる声と願いが込められた提言とするべくまとめ上げました。

市長及び当局には、この市民に密着した提言内容を吟味、参酌され予算編成に反映していただきますよう、併せて、本市における地域格差を生じさせない、誰一人取り残さない公平公正な施策・事業展開となるようお願いし、提言書の提出といたします。

令和6年11月22日

藤枝市議会 会派「藤のまち未来」

1 選挙投票率向上のための工夫・改善を一層図りたい。

令和6年4月の市長選、市議補欠選と10月の衆議院議員選挙において、期日前投票所が増設されたことを評価するが、青島南地区交流センター及び藤枝地区交流センターについては投票期間が限定されたものであり不便の声も聞かれた。4月、10月いずれの選挙においても投票率は50%台と低迷していることから、当該の期日前投票所における投票期間の延長を図りたい。また、アクセス性が悪い投票所が散見され、これにより投票率が低くなっている地域については投票所を増設するとともに、移動の困難な選挙人への移動支援、移動式投票所の導入を図りたい。

2 藤枝市文化センターの在り方、建て替えの再考を図りたい。

文化センターのホールや会議室の利用率は35%台と低い状況にあり利活用の面で大きな課題になっている。また築47年のため、室内が暗く、トイレも含めて数ある市内公共施設の中で劣化は最も著しいといえる。同センターの立地から、重点施策として事業を進めている中心市街地まちづくりの中でどう位置づけられるのか。今後の在り方及び建て替えについて、新庁舎整備事業よりも優先した整備構想を練りたい。

3 地域事業所と地域コミュニティの「防災協定」締結を図りたい。

地域の事業所と自治会・町内会が「防災協定」を締結し、災害時における備蓄物資や発電設備等の提供、避難場所となる社屋や敷地の確保、支援活動等を提携し合える体制を整えられたい。また、その協力体制の基本となる事業所と住民の連携した防災訓練の実施や情報共有等を行ないながら、一つでも多くの事業者が協定に加わっていただけるよう働き掛けられたい。

4 生活道路「時速30キロ運転」の法改正を見据えた取組を図りたい。

警察庁は、一般道路のうち速度規制がかかっておらず中央線などが無い幅員の狭い区間等について、車の法定最高速度を時速30キロと定める方針を決め、令和8年9月実施を目指している。これにより住宅地域等の生活道路において、歩行者や自転車利用者などの安全確保が大いに期待される。本市として、本法令改正に備えた(仮称)「時速30キロ運転道路整備計画」を策定され、悲惨な交通事故を予防する取組や運動が市民とともにいち早く実行できるよう図られたい。

5 重症心身障がい者の看護・医療が整った施設整備を早急に図られたい。

重症心身障がい者の「親亡き後」問題として、長期入所+医療的ケア（入院・看護・医療）まで総合的に対応できる重症心身障がい者施設が志太榛原圏域には無く、現状問題として短期入所施設も不足している。重症心身障がい者の保護者の高齢化が進み、入所待機者も増える中、圏域の課題として捉えられ本市に当該施設が実現できるよう取り組まれない。本提言は、市内数地区の市民から強く要望され、広大な土地（水田等）の無償提供や支援も厭わないとまで言っていたでいる。また、その運営・参画をしていただける関係事業者も複数いるので早急に検討していただきたい。

6 人口減少、少子化著しい瀬戸谷小・中学校の施設一体化を図られたい。

市内でもっとも高齢化率が高く少子化著しい瀬戸谷学区では、学校の存在こそが未来への希望であることから、平成 27 年度に瀬戸谷自治会は小中一貫教育・施設一体化の検討を含めた小中学校の存続について、住民の意向調査等の関係資料を添えた提言書を提出している。近隣市町では小規模校の統廃合を進めているが、本市においては瀬戸谷小・中学校を対象に施設一体型「義務教育学校」の検討を図られたい。併せて瀬戸谷中学校跡地の利活用について、藤枝トレセン構想や陶芸村構想とも絡めた拠点施設となるよう検討されたい。

7 「学習チャレンジ事業」における受講者の増加を図られたい。

経済格差が教育格差となっている状況を断ち切りたい。近年委託事業者が変わり改善点も見られるが、依然として受講者が限られている状況である。教育委員会への協力を呼び掛けているのに受講者が増えない原因は何かを精査され、本事業をより効果的なものとされるよう改善・工夫を図られたい。

8 放課後児童クラブの開所時間の延長を図られたい。

働き方が多様化し夫婦共稼ぎ世帯が増える中、子どもの預かり時間の問題は深刻化している。乳幼児施設の開所時間は朝早く、夕方まで遅くまで対応してくれる。一方、小学校の児童クラブでは、預けられる時間が乳幼児施設より短いため、保護者の働く時間が制限される。小1の壁ともいわれるが、全ての児童が放課後を安全・安心に過ごし、尚且つ様々な体験・活動を行いながら 19 時まで過ごせるよう開所時間の延長を図られたい。

9 水害予防対策と予算の拡充を図りたい。

昨今の異常気象に伴う豪雨や台風の増加により、河川の氾濫、越水、土砂災害、家屋への被害が懸念されている。これらの災害に対して、事後対応では膨大なコストを要することが多く、事前に予防措置を講じることで被害を最小限に抑え、費用対効果の高い対策が実現できると考え、以下5点について提言する。

① 河川浚渫の定期的実施

河川の水量が増加した際に越水するリスクを軽減するため、定期的な河川の浚渫作業を実施すること。特に近年、水位上昇が顕著な河川を優先的に実施されたい。

② 調整池の設置及び拡充

豪雨時に一時的に水を溜める調整池の確保・拡充が重要と考える。特に小石川沿いにおいて、現在の調整池の容積や配置状況を見直し、さらに必要な箇所への新規設置を検討されたい。下流域（焼津市含む）への水害防止対策にも寄与する。

③ 山間部住居地域の土砂崩れ対策

山間部における豪雨による土砂崩れは、住居地域や生活インフラに甚大な影響を与える。斜面の安定性を確保するための防災工事（擁壁工や植生工など）を拡充し、土砂崩れリスクの高い住居地域を精査・特定し、早急な対策を講じられたい。

④ 危険箇所の早期発見と工事着手

過去のデータやシミュレーションによって、豪雨時に被害が想定される地域や場所を特定し、優先的に工事を行うよう図られたい。危険箇所の工事に早期に取り掛かることで、災害発生時の人的・物的被害を大幅に軽減できる。

⑤ 防災対策予算の拡充と優先化

被災後の復旧費用は莫大になるため、被災前の防災対策強化を重要視されたい。そのために、水害防止対策予算を拡充し、ハザードマップや自治会・町内会等から指摘されている危険箇所について、調査及び施工を優先的に進めるべきと考える。特に、浸水や護岸崩落、土砂崩れが起りやすい地域への重点的な予算配分を図られたい。

10 交通安全対策として、道路区画線の徹底した整備を図られたい。

令和6年度開催の市議会タウンミーティングでも、参加者から道路上の白線が消えてしまっていて危険であるとの指摘があった。市民の交通安全対策への要求が高まっていると感ずるが、市内の多くの道路で区画線が消えてしまっている状況である。これに関して6年度9月補正予算により区画線に充てるための事業費が増加されたことを評価するが、一刻も早く塗り直し等の整備を進められたい。

11 小川・島田幹線（葉梨・高洲線から焼津市堺までの延伸約800m）の接続により、南部地区の大幅な渋滞緩和を図りたい。

現在、藤枝南部地区の交通状況は、大井川・焼津・藤枝スマートインターチェンジの開通により、県道高洲・和田線の交通量は激増し、車の渋滞は一層激しく通勤トラブルや、交通安全面から見ても危険な状況にある。すでに焼津市側の区間工事はほぼ完成し、残すところは本市区間の整備を待つのみとなっている。この区間について、県に早急に施工するよう強く要望されたい。

12 葉梨・稲葉線の通称「花倉坂」の道路拡幅を早急に図りたい。

稲葉自治会・瀬戸谷自治会・葉梨自治会からも度々要望されているが、市道葉梨・稲葉線の通称「花倉坂」は幅員が狭く、高低差のあるカーブの連続により接触事故が多発している危険な道路である。新東名やバイパスへのアクセス道路でもあり、また、北部地域への車両通行量も増加しているため、早急に拡幅工事、安全対策等の整備を施されたい。

13 葉梨街道の旧押切橋と境橋に歩行者・自転車専用橋の併設を図りたい。

葉梨地区の玄関口である旧押切橋と境橋の現状は、自転車通学の学生や買い物に行く歩行者などが対面通行できないほど路側帯が狭く危険であり、自動車等との接触事故が過去に数件ある。隣接する志太中央幹線の利用を勧める方策もあるが、市民にとっては生活道路としての利便性上わざわざ迂回するのは難しい。今後の事故発生を防止するため、歩行者・自転車専用橋を建設されたい。

14 市街化調整区域への移住定住希望者のための入居期限付専用集合住宅等の建設を図りたい。

空き家バンク、空き地バンクの登録物件数が少ないため、中山間地域に移住定住を希望する東京圏等の子育て世帯や若手就農希望者のために、空き家等が確保できるまでのあいだ居住できる「入居期限付移住定住希望者専用集合住宅、農業資機材倉庫等」の建設を実現されたい。（耕作維持が困難な農家から農地提供の要望もあるため）

15 農地の「地域計画」に連動した戦略的土地利用の推進を図られたい。

農地の「地域計画」における目標地図策定作業が進められているが、集積や集団化の一方で未利用となる耕作放棄地、遊休農地について、農振除外及び農地転用による住居地や産業用地として活用する戦略的土地利用施策を講じられたい。また、オーガニックビレッジ宣言都市の観点から、有機米圃場、有機野菜圃場の団地創出及び慣行農業から有機農業への転換促進を図られたい。

16 害獣捕獲者の後方支援拠点・減容化施設敷地内に、ジビエ解体施設の併設を図られたい。

害獣捕獲者（猟友会等）の後方支援拠点として建設された減容化施設の敷地内に、ジビエ解体施設の併設が要望されている。猟友会・獣肉加工業者・関連事業者等の有志からの提言であるが、鳥獣被害防止対策協議会において、このことを早急に協議され、農林作物への被害防止とともに狩猟者の捕獲意欲向上を図るためにもジビエ解体施設の実現を図られたい。

以上